

■使用評価マニュアル：北九州市建築物総合環境性能評価制度マニュアル

■使用評価ソフト：CASBEE北九州_2014(v2.0)

1 建物概要

建物名称	仮称 ユーウェーブ一枝マンション	BEE	0.7	BEEランク	B-	★★
------	------------------	-----	-----	--------	----	----

2 重点項目への取組み度

重点項目	得点※/満点	取組み度	評価
1 循環型社会への貢献	2.8 /5	  	がんばろう 
2 地球温暖化対策の推進	3.2 /5	  	ふつう 
3 豊かな自然環境の確保	1.3 /5	 	がんばろう 
4 高齢社会への対応	3.0 /5	  	ふつう 
※ 対応するCASBEEのスコア(平均)を5点満点で表示します。(スコア1.0=1点、スコア5.0=5点)		評価 凡例	
		よい 4 点以上	
		ふつう 3 点以上	
		がんばろう 3 点未満	

3 設計上の配慮事項とCASBEEのスコア

使用CASBEE評価マニュアル: CASBEE-建築(新築) 2016年版		使用CASBEE評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v.2.1)	
1 循環型社会への貢献		スコア平均 2.8	
リサイクルに関する配慮		長寿命化に関する配慮	
LR2/ 2 非再生性資源の使用量削減	スコア 2.8	Q2/ 2.2 部品・部材の耐用年数	スコア 2.9
		Q2/ 3 対応性・更新性	スコア 2.8
<自由記述>		<自由記述> 更新間隔の長い配管材料を採用している。	
2 地球温暖化対策の推進		スコア平均 3.2	
省エネ・省資源に関する配慮		節水に関する配慮	
LR3/ 1 地球温暖化への配慮	スコア 3.4	LR2/ 1.1 節水	スコア 3
<自由記述> ライフサイクルCO2排出率 88%		<自由記述> 節水型機器を採用している。	
3 豊かな自然環境の確保		スコア平均 1.3	
生態系保全に関する配慮		緑化に関する配慮	
Q3/ 1 生物環境の保全と創出	スコア 1	Q3/ 3.2 敷地内温熱環境の向上	スコア 2
		LR3/ 2.2 温熱環境悪化の改善	スコア 1
<自由記述>		<自由記述>	
4 高齢社会への対応		スコア平均 3.0	
バリアフリーに関する配慮		主な指標	
Q2/ 1.1.3 バリアフリー計画	スコア 3	建物の外皮性能 (BPI評価)	
<自由記述> 福岡県福祉のまちづくり条例の整備基準をおおむね満たしている。		非住宅:BPI値、住宅:省エネ等級	
		建物の一次エネルギー消費量 (BEI評価)	
		非住宅:BEI値、住宅: —	
		外構緑化指数	
		建物緑化指数	

: 入力欄

: CASBEE-建築(新築)の採点結果から転記してください。

CASBEE®-建築(新築)

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 (使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v2.1))

1-1 建物概要			1-2 外観	
建物名称	仮称 ユーウェーブ一校マンション	階数	地上8F	
建設地	福岡県北九州市戸畑区土取町7-16	構造	RC造	
用途地域	第一種中高層住居専用地域、防火地域	平均居住人員	75 人	
地域区分	6地域	年間使用時間	5,000 時間/年(想定値)	
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価	
竣工年	2017年3月 竣工	評価の実施日	2017年3月6日	
敷地面積	1,169 m ²	作成者	松井 司	
建築面積	508 m ²	確認日	2017年3月6日	
延床面積	2,192 m ²	確認者	川原 貴弘	



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)	2-2 ライフサイクルCO ₂ (温暖化影響チャート)	2-3 大項目の評価(レーダーチャート)
<p>BEE = 0.7 ★★★★★</p> <p>S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★★★★★</p>	<p>標準計算</p> <p>30%: ★★★★★ 60%: ★★★★★ 80%: ★★★★★ 100%: ★★★★★ 100%超: ★★★★★</p> <p>①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+</p> <p>このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです</p>	

2-4 中項目の評価(バーチャート)
<p>Q 環境品質</p> <p>Q1 室内環境 Q1のスコア= 2.4</p> <p>音環境 2.0 2.0 2.0 2.0</p> <p>熱環境 2.0 2.0 2.0 2.0</p> <p>光・視環境 3.1 2.7</p> <p>空気質環境</p> <p>Q2 サービス性能 Q2のスコア= 2.6</p> <p>機能性 2.4 2.7 2.8</p> <p>耐用性 対応性</p> <p>Q3 室外環境(敷地内) Q3のスコア= 2.1</p> <p>生物環境 1.0 3.0 2.0</p> <p>まちなみ 地域性・</p> <p>LR 環境負荷低減性</p> <p>LR1 エネルギー LR1のスコア= 3.7</p> <p>建物外皮の 2.0 2.0 5.0 3.0</p> <p>自然エネ 設備システ 効率的</p> <p>LR2 資源・マテリアル LR2のスコア= 2.8</p> <p>水資源 3.0 2.8 3.0</p> <p>非再生材料の 汚染物質</p> <p>LR3 敷地外環境 LR3のスコア= 2.6</p> <p>地球温暖化 3.4 1.5 3.1</p> <p>地域環境 周辺環境</p>

3 設計上の配慮事項		
総合		その他
周辺の街並みに配慮した外観と室内の快適性・防犯性の高い住まいを計画した。		0
Q1 室内環境	Q2 サービス性能	Q3 室外環境（敷地内）
リビングの開口部を大きくする事で、積極的な昼光利用を計画した。	更新間隔の長い配管材料を採用する事で、維持管理に配慮した。	街並みや風景にバランス良く調和される色彩の外観とした。
LR1 エネルギー	LR2 資源・マテリアル	LR3 敷地外環境
LED照明の採用等により、一次エネルギー消費量の削減に配慮した。	節水型機器の採用により、水資源の確保に配慮した。	・複層ガラスの採用により、CO2排出率の削減に配慮した。 ・目的に合った照度設定を行い、光害対策に配慮した。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと

■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

CASBEE-建築(新築)2016年版

仮称 ユーウェーブ 一校マンション

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版

欄に数値またはコメントを記入 ■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v2.1)

スコアシート 実施設計段階						
配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体
Q 建築物の環境品質						2.4
Q1 室内環境			0.40	-	-	2.4
1 音環境		3.0	0.15	1.6	1.00	1.9
1.1 室内騒音レベル		1.0	0.50	1.0	0.50	
1.2 遮音		5.0	0.50	2.2	0.50	
1 開口部遮音性能	T-2	5.0	1.00	5.0	0.30	
2 界壁遮音性能			-	1.0	0.30	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)			-	1.0	0.20	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)			-	1.0	0.20	
1.3 吸音			-		-	
2 温熱環境		1.6	0.35	2.0	1.00	1.9
2.1 室温制御		2.3	0.50	2.0	1.00	
1 室温		2.0	0.63	-	-	
2 外皮性能		3.0	0.38	2.0	1.00	
3 ゾーン別制御性			-		-	
2.2 湿度制御		1.0	0.20	-	-	
2.3 空調方式		1.0	0.30	-	-	
3 光・視環境		2.2	0.25	3.5	1.00	3.1
3.1 屋光利用		4.2	0.30	4.0	0.50	
1 屋光率	屋光率3.5%以上	5.0	0.60	5.0	0.50	
2 方位別開口			-	3.0	0.30	
3 屋光利用設備		3.0	0.40	3.0	0.20	
3.2 グレア対策		1.0	0.30	3.0	0.50	
1 屋光制御		1.0	1.00	3.0	1.00	
3.3 照度		3.0	0.15	-	-	
3.4 照明制御		1.0	0.25	-	-	
4 空気質環境		2.6	0.25	2.7	1.00	2.7
4.1 発生源対策		3.0	0.60	3.0	0.63	
1 化学汚染物質		3.0	1.00	3.0	1.00	
4.2 換気		2.0	0.40	2.3	0.38	
1 換気量		1.0	0.50	3.0	0.33	
2 自然換気性能			-	1.0	0.33	
3 取り入れ外気への配慮		3.0	0.50	3.0	0.33	
4.3 運用管理			-		-	
1 CO ₂ の監視			-		-	
2 喫煙の制御			-		-	
Q2 サービス性能		-	0.30	-	-	2.6
1 機能性		2.1	0.40	2.6	1.00	2.4
1.1 機能性・使いやすさ		3.0	0.40	3.0	0.60	
1 広さ・収納性			-		-	
2 高度情報通信設備対応			-	3.0	1.00	
3 バリアフリー計画		3.0	1.00		-	
1.2 心理性・快適性		1.0	0.30	2.0	0.40	
1 広さ感・景観			-	3.0	0.50	
2 リフレッシュスペース			-		-	
3 内装計画		1.0	1.00	1.0	0.50	
1.3 維持管理		2.0	0.30		-	
1 維持管理に配慮した設計		2.0	0.50		-	
2 維持管理用機能の確保		2.0	0.50		-	
2 耐用性・信頼性		2.7	0.30		-	2.7
2.1 耐震・免震・制震・制振		3.0	0.50		-	
1 耐震性(建物のこわれにくさ)		3.0	0.80		-	
2 免震・制震・制振性能		3.0	0.20		-	
2.2 部品・部材の耐用年数		2.9	0.30		-	
1 躯体材料の耐用年数		3.0	0.20		-	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔	20年	2.0	0.20		-	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		4.0	0.10		-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		3.0	0.10		-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔	主要な用途上位3種の、2種以上にC以上を使用	4.0	0.20		-	
6 主要設備機器の更新必要間隔		2.0	0.20		-	
2.4 信頼性		2.0	0.20		-	
1 空調・換気設備		1.0	0.20		-	
2 給排水・衛生設備		1.0	0.20		-	
3 電気設備		3.0	0.20		-	
4 機械・配管支持方法		3.0	0.20		-	
5 通信・情報設備		2.0	0.20		-	

3 対応性・更新性			2.6	0.30	2.9	1.00	2.8
3.1 空間のゆとり				-	2.8	0.50	
1	階高のゆとり	階高2.9m以上		-	4.0	0.60	
2	空間の形状・自由さ			-	1.0	0.40	
3.2 荷重のゆとり				-	3.0	0.50	
3.3 設備の更新性			2.6	1.00		-	
1	空調配管の更新性		3.0	0.20		-	
2	給排水管の更新性		3.0	0.20		-	
3	電気配線の更新性		3.0	0.10		-	
4	通信配線の更新性		3.0	0.10		-	
5	設備機器の更新性		1.0	0.20		-	
6	バックアップスペースの確保		3.0	0.20		-	
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.30	-	-	2.1
1 生物環境の保全と創出			1.0	0.30		-	1.0
2 まちなみ・景観への配慮			3.0	0.40		-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮			2.0	0.30		-	2.0
3.1	地域性への配慮、快適性の向上		2.0	0.50		-	
3.2	敷地内温熱環境の向上		2.0	0.50		-	
LR 建築物の環境負荷低減性				-		-	3.1
LR1 エネルギー			-	0.40	-	-	3.7
1 建物外皮の熱負荷抑制			2.0	0.20		-	2.0
2 自然エネルギー利用			2.0	0.10		-	2.0
3 設備システムの高効率化			[BEI][BEIm] = 0.31	5.0	0.50	-	5.0
4 効率的運用			3.0	0.20		-	3.0
集合住宅以外の評価				-		-	
4.1	モニタリング			-		-	
4.2	運用管理体制			-		-	
集合住宅の評価			3.0	1.00		-	
4.1	モニタリング		3.0	0.50		-	
4.2	運用管理体制		3.0	0.50		-	
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	-	2.8
1 水資源保護			3.0	0.20		-	3.0
1.1 節水			3.0	0.40		-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.0	0.60		-	
1	雨水利用システム導入の有無		3.0	1.00		-	
2	雑排水等利用システム導入の有無		-	-		-	
2 非再生性資源の使用量削減			2.8	0.60		-	2.8
2.1	材料使用量の削減		2.0	0.10		-	
2.2	既存建築躯体等の継続使用		3.0	0.20		-	
2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	合板	3.0	0.20		-	
2.4	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		3.0	0.20		-	
2.5	持続可能な森林から産出された木材		2.0	0.10		-	
2.6	部材の再利用可能性向上への取り組み		3.0	0.20		-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.0	0.20		-	3.0
3.1 有害物質を含まない材料の使用			3.0	0.30		-	
3.2 フロン・ハロンの回避			3.0	0.70		-	
1	消火剤		-	-		-	
2	発泡剤(断熱材等)		3.0	1.00		-	
3	冷媒		-	-		-	
LR3 敷地外環境			-	0.30	-	-	2.6
1 地球温暖化への配慮			ライフサイクルCO2排出率 88%	3.4	0.33	-	3.4
2 地域環境への配慮				1.5	0.33	-	1.5
2.1 大気汚染防止			-	-		-	
2.2 温熱環境悪化の改善			1.0	0.67		-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			2.6	0.33		-	
1	雨水排水負荷低減		3.0	0.33		-	
2	汚水処理負荷抑制		-	-		-	
3	交通負荷抑制		3.0	0.33		-	
4	廃棄物処理負荷抑制		2.0	0.33		-	
3 周辺環境への配慮			3.1	0.33		-	3.1
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40		-	
1	騒音		3.0	1.00		-	
2	振動		-	-		-	
3	悪臭		-	-		-	
3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制			3.0	0.40		-	
1	風害の抑制		3.0	0.70		-	
2	砂塵の抑制		-	-		-	
3	日照阻害の抑制		3.0	0.30		-	
3.3 光害の抑制			3.7	0.20		-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	照明目的に合った照度設定を行った。広告物照明無し。	4.0	0.70		-	
2	星光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30		-	